

# 腹腔鏡下副腎摘除における肝臓と副腎の癒着の予測因子の 検討

## (1. はじめに)

副腎腫瘍に対する治療は手術が一般的であり、特に低侵襲手術として腹腔鏡手術が選択されています。腹腔鏡手術の利点は傷の小ささ、良好な視野などですが、一方で臓器同士がくっついている場合（癒着）には腹腔鏡用鉗子で剥がすのに難渋することがあります。

肝と副腎の間には通常被膜が存在し、通常手術の際にトラブルとなることはありませんが、時に被膜を欠き、組織同士が直接接着する方がいます。このような場合、副腎を剥がすことが困難となり、肝損傷や副腎を完全に切除できないといった原因となっています。このような状況を予測することができれば不要なトラブルを避けることが可能となりますが、その予測方法はいまだ明らかになっていません。

そこで今回、腹腔鏡下右副腎摘除術の際の肝臓と副腎の癒着の予測因子を明らかにしたいと考えています。

## (2. 対象)

2008年4月1日以降に京都医療センターで腹腔鏡右副腎摘除術を受けた患者さんのうち、手術中に癒着していたかどうかを手術記録から判断可能となった方を解析対象とします。

対象となった方への負担および利益はありません。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

速やかに解析対象から除外いたします。

上記研究の対象となることを希望されなかったことで一切不利益はありません。

## (3. 研究内容)

該当する患者を被験者として登録し登録時に下記の臨床情報を診療録より取得します。

- ・肝臓と副腎の癒着の有無
- ・術前画像所見
- ・年齢、性別、BMI、術前診断

## (4. 研究期間)

研究期間は倫理委員会承認日から3年間です。

## (5. 個人情報の管理について)

データはすべて匿名化として扱われます。またデータは厳重に管理されます。なお匿名化された上での解析結果は公表されることがあります。

(6. 研究機関)

研究責任者 国立病院機構京都医療センター 泌尿器科 部長 奥野 博

主任研究者 国立病院機構京都医療センター 泌尿器科 医師 伊藤 克弘

(7. 試験に関するお問い合わせ)

研究事務局 京都医療センター 泌尿器科

伊藤 克弘

〒632-8555 京都市伏見区深草向畑町 1-1

TEL : 075-641-9161

(8. 倫理委員会の承認)

本研究は倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けています。

(9. 利益相反)

本研究における利益相反はありません。

(10. 資料の保管)

主任研究者、研究責任医師及び試験分担医師は、当該疫学研究の実施に係る記録を試験終了後 5 年間適切に保存します。